

「野方小学校の荒佐野棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

大崎町立野方小学校

2 学年・人数

4年・5年・6年（計36人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和元年7月13日（土）総合的な学習の時間（本校体育館）

令和元年9月6日（金）総合的な学習の時間（本校体育館）

令和元年9月14日（土）総合的な学習の時間（本校体育館）

令和元年9月20日（金）衣装合わせ・リハーサル（本校体育館）

(2) 発表の日時・場所

令和元年9月23日（月）野方小学校秋季大運動会

令和元年10月5日（土）野方ふれあいふるさと祭り（野方グラウンド）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

荒佐野棒踊り（あらさのぼうおどり）

(2) 由来

約334年前に摂津・河内・和泉の三国（現在の大阪地方）から荒佐野の地へ移住した人びとの子孫から伝えられた。由来については、「農耕儀礼」，「朝鮮出兵の凱旋祝賀」，「防御・攻撃術の踊り化」など諸説あるが，一般的には五穀豊穰や無病息災を祈って踊られることから，荒佐野を開墾した人びとも新天地での安泰を祈願して踊るようになったと思われる。

(3) 構成等

踊りは，6尺棒（木製薙刀）を持った踊り手と3尺棒（木製刀）を持った踊り手の総勢24人が縦2列に並び，前後4人1組で歌い手の歌う調子に合せながら，威勢のいい掛け声とともに棒を打ち合わせ勇壮に踊られる。

5 保存会や地域との連携の具体

ここ数年，児童数減少により，全校で行う行事にその影響が出てきた。特に，運動会は，児童は少なくなったのに出場する種目が多く，休む暇がないなどの課題が多く見られた。

そこで，学校としては「秋季大運動会」を盛大に開催できるように，棒踊り保存会や地域（野方公民分館）との連携・協力を推し進め，平成25年度から，4～6年の運動会表現種目に「棒踊り」を取り入れた。次に，平成26年度から，野方公民分館との合同運動会と称して，校区民が出場する地域種目を設け，運動会を盛り上げる工夫を行ってきた。棒踊りも準備から運動会本番まで保存会との連携を図り，充実してきている。また，運動会の数日後に行われる「野方ふるさと祭り」でも披露するなど活動の幅も近年広げてきている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

連携・協力の「体制」をしっかりとさせるために窓口を明確にしている。保存会側は、代表が窓口になり、保存会の会員の協力を取り付けるようにしている。学校側は、全体的には教頭が窓口になっているが、児童の練習計画や指導内容等、詳細の打合せは、体育主任や4～6年の担任が行い、児童が効果的・効率的に棒踊りを学習・練習できるように進めている。

次に、連携・協力の「場」の設定としては、2つの場面（ステージ）を考えている。場面（ステージ）1は、学校の授業での指導や運動会、野方ふるさと祭り等での発表である。場面（ステージ）2は、荒佐野春祭りに向けた練習や奉納の棒踊りである。ステージ2で、踊り手が不足した場合、保存会は学校に踊り手確保の相談や勧誘の協力依頼を行っている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



保存会の方の指導による体育館での練習風景



運動会で揃いの衣装を着て元気に踊る子供たち

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【6年児童】

- ・ ぼくが棒踊りを始めたのは4年生からです。運動会で踊ることがきっかけでした。初めて見たときは難しそうだと思います。練習してみると、予想とは反対で思ったよりも簡単に覚えることができました。棒踊りには、長い六尺と短い三尺がありますが、ぼくは六尺の方です。みんなでやる練習は、楽しいので、これからも下学年の皆さんにも続けてやってほしいです。

【保護者】

- ・ 小学生に棒踊りを教えて3年目になる。今年も、我が子とこの棒踊りを踊れることを楽しみに、これからも一生懸命教えていきたい。

【教職員】

- ・ 本校の棒踊りも7年が経ち、運動会を代表する種目としてすっかり定着している。6年生の踊る姿を見て、4年生・5年生が覚えていくという形もすっかり定着し、保存会の方々に教えていただくことへの感謝の気持ちをもって、子供たちも取り組んでいる。今後もより質の高い踊りができるように連携を深めながら取り組んでいきたい。

【保存会から】

- ・ 子どもたちに、夏の暑い時期に、体育館で一回45分程度の練習を行って熱中症は大丈夫であろうかと心配したが、子供たちは一生懸命集中して取り組んでくれた。すぐに上達するので教えていておもしろい。